

都市生活者の視点からみた地域の魅力・価値に関する研究

-その2 都市に求められる「5つの場」の提案-

正会員○若林 直子*1 同 陶 真裕*2

評価グリッド法 インタビュー調査 好きな場所
都心居住 大規模高層マンション 地域環境評価ツール

同 添田 昌志*3 同 江田 友祐*4
同 小島 隆矢*5

1. はじめに

近年、容積率の規制緩和等を背景に、都心に大規模高層マンション等の竣工が相次いでいる。こうしてつくられた新しい「まち」の多くは、コミュニティ形成、防災・防犯、環境、地域社会との共存等の課題を抱えている。この解決に欠かせないのは居住者の意識・行動だが、既報¹⁾によれば、地域に関心や愛着等がなければ不満があっても行動等には結びつかない。つまり居住者の地域に対する愛着等が重要なのだが、それを育むには地域の不満解消より魅力を高める方が効果的なのである²⁾。

このような見地から本研究では都市生活者が感じる地域の魅力・価値に着目している。本報では、これらを前報の居住者個別インタビュー調査(評価グリッド法)を通じて明らかにすると同時に、得られた結果を分かりやすくイラスト化する試みを行なった。

2. 地域の魅力・価値

調査結果は、上位概念(例:のびのび)~下位概念(例:空が広い)~「いい、好きな場所」(例:運河沿い)といった階層構造図として、回答者ごとに整理した。このうち上位概念は「都市生活者が感じる地域の魅力・価値」そのものと考えられる。そこで、この概念に着目し全結果を取りまとめた。

- (1)各回答者の結果から上位概念だけを全て抽出し一覧表に整理。
- (2)各回答者の結果を一旦分解し、下位概念を含め一覧表上に再整理。
- (3)下位概念を適宜省略し、全体で一枚の階層構造図を作成(図1)。

下位概念は多岐に渡っていたが、上位概念は個人属性や地域による差が小さく(前報)、概念数も少なかったため、この方法で全結果をまとめるのは予想に反して容易だった。このことから「地域に求められている魅力や価値には、

地域・人を超えた共通項が多い」といえよう。

3. 都市居住に求められる「5つの場」

イラスト化を念頭に、得られた上位概念をさらに整理・統合した。この際、「安心」は「当たり前品質」であること、「愛着・親しみ」等は場所ではなく個人の感情であることから対象外としたが、その他はほぼすべて盛り

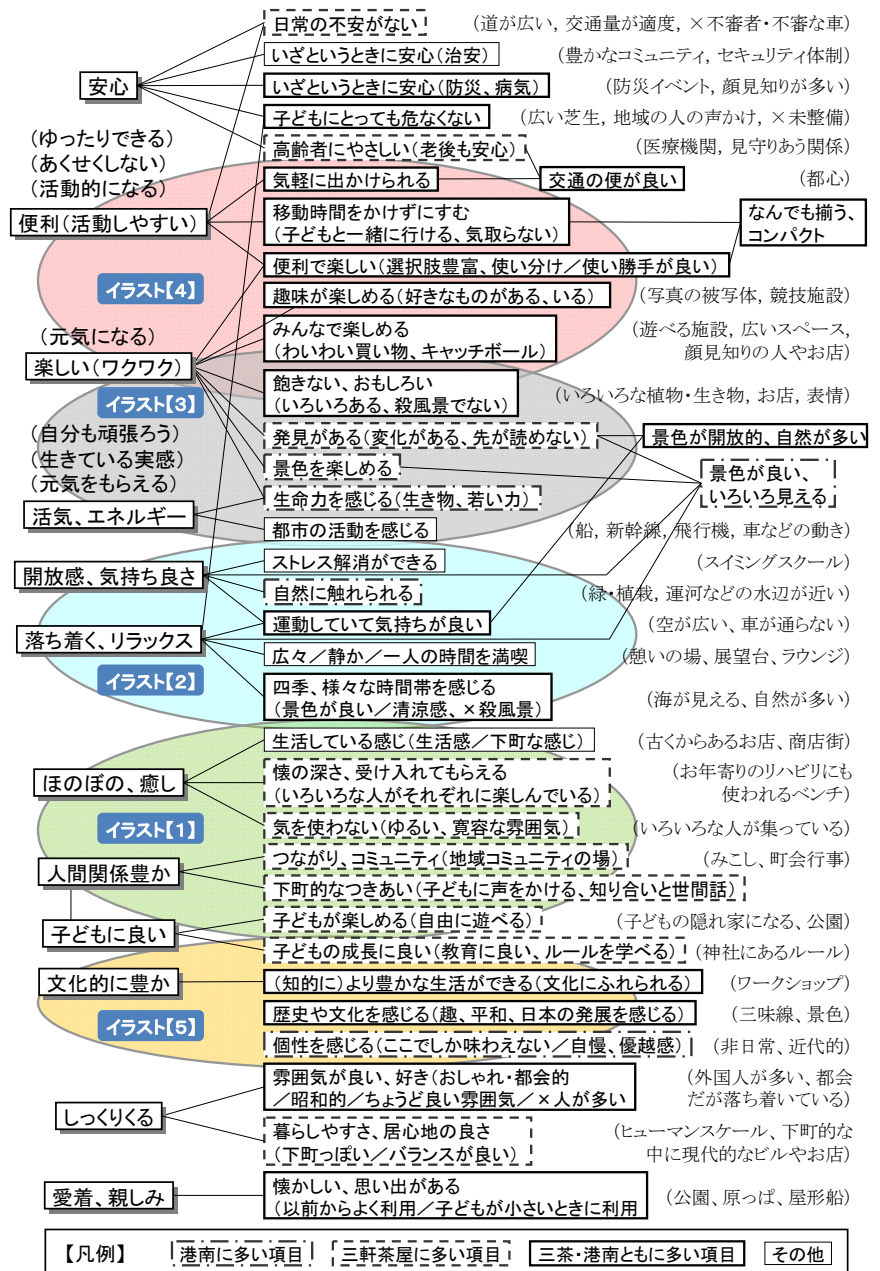


図1 評価グリッド法によるインタビュー調査結果まとめ(全回答者 34人分)

A Survey of Attraction and Value of Residence from the Viewpoint of City dwellers

Part2 : Proposal of "Five places" that City dwellers needs

WAKABAYASHI Naoko, SUE Mayu, SOEDA Masashi, EDA Yusuke, and KOJIMA Takaya

込んだ。こうして得られた5カテゴリに対して象徴的な場面を設定してイラスト化したのが図2である。

この「5つの場」には今回の調査だからこそ明確になったと思われる知見も含まれる。たとえば【4】は「利便性」である。インタビューではほぼ全回答者が「交通の便」等をあげたが、今回は評価グリッド法でラダーアップを行なったため、自然に利便性の上位概念を引き出すことができた。「便利」だと時空間の制約等がなくなり「自由になる」「あくせくしない」「ゆったりできる」、その結果「活動的になる」のである。一方、【3】は自分の活動ではなく「多種多様な乗り物、人々、鳥や魚などの動き、活動を見ること」の楽しさの表現である。たとえば、多くの回答者が語った超高層マンションからの眺望等の楽しさは「飽きない」「わくわくする」「ぼーっとできる」、さらには「元気をもらえる」。「見る元気」は、都市ならではの魅力・価値の一つと考えられる。

4. おわりに

筆者らは、今後この「5つの場」を、都市生活者にとっての地域の魅力、および魅力を高めるための改善点を発見する「地域環境評価ツール」に発展させたいと考える。魅力的で価値ある地域づくりのためには、事業者側の視点に立った謳い文句ではない、生活者の感覚に根ざした客観的で使いやすい価値指標が必要といえる。

今後、「5つの場」等に関するアンケート調査、地域や回答者層を広げたインタビュー調査等を行ない今回の結果を検証すると同時に、「5つの場」等に相当する場所を探し写真撮影するなどして「5つの場」を表現するポキャブラリーを増やしていく予定である。(同じ上位概念でも実際にはさまざまな場所が考えられる。たとえば今回【1】は遊歩道のイメージにしたが、神社、オープンカフェ、マンションのラウンジ等でもよかった。「ふらっと・ゆるゆる・集う」を満たすことが重要なのである。)

【1】ふらっと・ゆるゆる・集う



ほのぼの、癒し／ゆるい、気取らない／コミュニティ／人と集える。出入り自由／懐が深い、寛容、思い思いに過ごせる

【2】のびのび・ポーっと・リラックス



運動が気持ちいい／景色がよい、開放的／自然、四季、風／ストレス解消／静か、一人の時間を満喫／落ち着く

【3】わくわく・発見・楽しい



活気、生命力、エネルギー／都市活動、変化、発見／面白い、飽きない／みんながんばっているな、元気をもらう

【4】アクティブ・自由・あくせくしない



気軽に出かけられる、疲れない／日常と非日常の混在、手軽にリフレッシュ／何でも揃う、コンパクト、選べる楽しさ

【5】文化・豊か・感じる



知的に豊か、いろいろ学べる／貴重なもの・文化に触れられる／歴史情緒、趣・風格／秩序や伝統、子どもの成長によい

図2 「5つの場」イラストとキーワード

- 1) 若林・小島・眞方・樋野・布田「居住環境評価と安全・安心に関わる対策行動との関連に関する調査研究」日本建築学会大会梗概集 D-1 分冊, 2008
- 2) 小島・若林「地域環境に関する意識調査手法の研究 - その2 地域に対する不満と魅力の捉え方-」日本建築学会大会梗概集 D-1 分冊, 2004

〔謝辞〕本研究は、財団法人ハイレブ研究所との共同研究「都市圏居住の価値を探る(2009年度)」として行ったものです。ここに記して謝意を表します。

*1 有限会社 生活環境工房あくと 代表 博士(工)
 *2 日本大学大学院文学研究科 修士(心)
 *3 LLP 人間環境デザイン研究所 博士(工)
 *4 早稲田大学大学院人間科学研究科
 *5 早稲田大学 人間科学学術院 准教授 博士(工)

Representative Director, Living Environment studio act, Dr. Eng.
 Graduate School of Literature and Social Sciences, Nihon Univ., M. Psychol.
 LLP Human Environment Design Lab., Dr. Eng.
 Graduate School of Human Sciences, Waseda Univ.
 Associate Professor, Faculty of Human Sciences, Waseda Univ., Dr. Eng.